



発行 真宗大谷派 高山教務所  
発行者 大町 慶華  
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地  
☎(0577)32-0776  
\*毎月20日発行 50,000部  
三市一郡無料配布  
印刷 山都印刷株式会社

# 念じられ 照らされて

## めずらしくお釈迦さまが お叱りになされた

竹橋 太



〔略歴〕  
一九六二年北海道生まれ。大谷  
大学大学院でインド仏教を学  
ぶ。真宗大谷派教学研究所所  
員を経て、現在真宗大谷派本廟  
部出仕。

あるお弟子が、お釈迦  
さまに尋ねました。「人は  
死んだらどうなるのでし  
うか？ 生まれ変わるの  
でしょうか、死んで終わ  
るのでしょうか、あるいは  
その両方なのでしょう  
か？」  
お釈迦さまの答えはこ

うです。「……」。一言  
もお答えにならなかった  
のでした。そして、「あな  
たは、自分をいつたい何  
者だと思っているのか」  
とめずらしくそのお弟子  
をお叱りになされたので  
す。  
私たちの考えでは、こ  
の四つの中に必ず答えが  
あるわけです。しかしお  
答えにならないというこ  
とは、その問題の立て方  
そのものが間違っている  
と考えなければなりません。  
私が生まれ死んでゆく。  
これは確かなことなので  
しょうか。確かにわか  
るまいに、自分の思  
うとおり生きたいとい  
う私があります。欲望は  
ばいあります。でもよく  
考えてみてください。た  
とえば三歳のときの自分  
と今の自分とは一緒です

か、生まれたときの自分  
はどうですか、同じ欲望  
を持っていますか、姿・  
形は同じですか？ 私は  
その瞬間瞬間に終わり、  
変わっているのです。さ  
まざまな縁がいます。私  
とつながっているのです。  
一定  
で変わらない自分など  
いないのです。だから、  
縁をいただく自分など  
ない、ご縁こそが自分  
とつながっているのです。  
これが釈尊の目覚めた縁  
起  
という真理です。別の言  
い方をすれば、私たちは  
今をいただいて生きてい  
るのです。本当はこうし  
て、私が今ここにあり  
ることが、大変「有り難  
いこと」なのです。  
多分皆さんも気づいて  
いるとは思いますが、  
私の中に二人以上の自分

がいます。自分を反省す  
る「自分」がいます。そ  
の「自分」が善いと思  
うことを集め、その理想  
に自分を高めようとして  
も本当はその善悪を決  
める「自分」こそが問題  
なのです。誰でもありま  
せん。いまこれを書いて  
いる「わたし」のことで  
あり、これを読んでいる  
「あなた」、「そんなこ  
とわかってるよ」と言っ  
ている「あなた」のこと  
です。私たちは、どうし  
てもそういう自分を確か  
なものとしていたり、ある  
いは疑うこともないまま  
生きています。それを「無  
明」といいます。  
続けてお釈迦さまはそ  
のお弟子におっしゃいま  
した。「毒矢が刺さって抜  
いて治療しなければなら  
ない時に、『この矢を射  
たのはいったい誰か、こ  
の矢羽は何でできている  
か、矢じりは何ででき  
ているのか、毒は何の毒  
か』と言っている人がい  
る。あなたの質問はこれ  
と同じだ」と。毒矢とは  
自分が疑っている事、  
自分自身のあり方、つま  
り無明のことです。「自  
分をいつたい何者だと思  
っているのか」というお  
釈迦さまのお叱りは、そ  
れに気づかないままのお  
弟子に、「毒矢を抜きな  
さい。あなたが疑っている  
ことは、当たり前ではな  
い。あなたが生きている  
のだ、今を生きているの

だ」ということを伝えた  
かったのだと思います。  
私たちがまったく同じ  
です。自分があることを  
当たり前のこととして生  
きています。最初の四つ  
の質問はまさに私たちの  
疑問と同じです。往生と  
その四つのもでもありま  
せん。死んで終わる自分  
も、死んで続く自分も  
ありません。今終わり、  
今始まっている、という  
生をいただいているので  
す。ですから、そういう  
自覚の下で生きることを  
往生というのだと思  
いますし、またそういう  
生き方をした人が、命  
終わることも死でなく、  
往生ということだと思  
います。

だ」ということを伝えた  
かったのだと思います。  
私たちがまったく同じ  
です。自分があることを  
当たり前のこととして生  
きています。最初の四つ  
の質問はまさに私たちの  
疑問と同じです。往生と  
その四つのもでもありま  
せん。死んで終わる自分  
も、死んで続く自分も  
ありません。今終わり、  
今始まっている、という  
生をいただいているので  
す。ですから、そういう  
自覚の下で生きることを  
往生というのだと思  
いますし、またそういう  
生き方をした人が、命  
終わることも死でなく、  
往生ということだと思  
います。

### 公開講座「原発と真宗」開催報告 2014年4月10日開催 講師：藤井学昭氏 (茨城県願船寺住職)

「2011年3月の東京電力福島第一原発事故では、放射性物質（放射能）が放出されました。放射性物質は、地をほうように風で運ばれ、雨で地表に落ちます。放射性セシウムは、土の表面から5センチ以内の所に留まります。表面のセシウムは水に流され河口にたまるので、川魚やヒラメ、スズキなどは食べられません」とお話が始まりました。「日本では、3ヶ月で1.3ミリシーベルトを超える所を「放射線管理区域」として一般の場所とは区別しています。一時間当たりの放射線量に換算すると0.6マイクロシーベルトを超える所です。私たちの身近な所で言えば、病院のX線室やCT室などです。しかし、事故後3年たっても福島では、一時間当たり0.6マイクロシーベルト以上の線量の中で日常生活を送らざるを得ない状況が続いています」と福島の現実を語られ、「子を持って 西へ西へと逃げてゆく 愚かな母と言うならば言え」という俵万智さんの短歌を紹介されました。福島の地で生活することを選んだ親と、離れることを選んだ親。行動は違っても、生きることを諦めない姿を感じました。  
パネルディスカッションでは、「保養は精神的安定を与え、親子関係が修復されるという面がある。被災地に赴いての支援と共に継続していくことが大切である」と確かめられました。(社会教化小委員会・森香里)

### 飛驒の真宗 伝承散歩④ かねん坊さん(上)

鎌倉時代、奥美濃白鳥(郡上市白鳥町)に嘉念坊善俊という親鸞聖人のお弟子がいらつしやいました。善俊上人は親鸞聖人の教えを伝え、人々に深い感銘を与えておりました。  
ある日、上人の庵に二人の粗末な身なりをした男がたずねてきました。「私は飛驒の白川郷より参りました。こちらに尊い方がいらつしやると聞いて、どのような方だろうと立ち寄りさせていだきました」。上人はたずねました。「あなたは仏さまの教えをご存知でしょうか?」。男は答えました。「いいえ、私なんぞは何にも知らんです」。  
上人はこれ聞いて気の毒になり、この男の住む白川郷へ行き、仏法を伝えたいと白鳥の村人たちに伝えました。村人たちは「白川郷は山と谷ばかりで、暮らしぶりもとても貧しいと聞いております。

仏法が繁盛しているこの白鳥を捨てて、わざわざ白川郷に向かうことなどありませぬ」と止めました。しかし善俊上人は言いました。「だからこそ、私は向かうのです。仏さまのことを何も知らずに生きる方々に、お念仏の教えを伝えていくところ、親鸞聖人の願いなのです」。  
そして善俊上人は白川郷へ向かい、鳩谷に草庵を構えました。上人は白川郷に念仏の教えを広め、人々が草庵に集うようになり、草庵は道場になりました。  
以降白川郷は、飛驒真宗発祥の地として伝えられています。  
(「岷江記」参照)



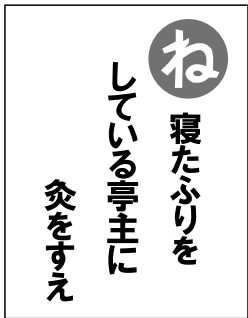
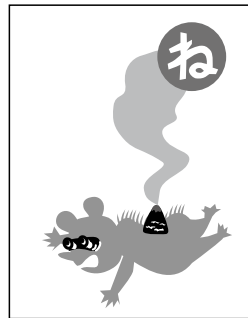
復元された嘉念坊善俊上人道場【白川村鳩谷】

☎テレビホン電話(0577)3423133 ○4月21日〜30日:山本憲人氏「寶藏寺」 ○5月1日〜10日:朝倉尊寿駐在「教務所」 ○5月11日〜20日:三枝正尚氏「隨縁寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)13210763

家庭で語ろう

女と男の ナムアマミダブツ②

藤場 芳子



十年目のプロポーズ

ある日の座談会でのこと、一人の男性が結婚十年目の元旦にあらためて妻にプロポーズをしたことを話してくれました。「へえ、照れずにそんなことをする人もいるんだ。さぞ奥さんは嬉しかっただろうな」と思いながら、話しの続きを聞きました。すると妻からの返事は、「あなたとの結婚は失敗でした。あなたは私を便利屋のよう

の仕事」として、自分は何にもやってこなかった。自分は両親の後姿を見て育った。家事の全ては母がやり、父は家の中のことは何もしなかった。「便利屋のように」という妻の言葉が胸に響いた男性は、それからよく「ありがとう」と声をかけるようになったという。でも、妻はこう応える。「いくら、ありがとうと言ってもだめですよ。あなたの根性はわかっていますから」。そう、自分にとつて都合のいいことをしてくれたから「ありがとう」なのだ。それを妻には見破られている。今回のカルタの句は「寝たふりをしている亭主に 灸をすえ」

私も あるとき 誰かのための蛇だったろう あなたも あるとき私のための風だったかもしれないで終わる。昆虫がチョウではなくてアブというところが面白い。チョウならきれいで誰からも好かれるし、自分から近寄ってみたい。一方、アブはブンブンいつて時には人を刺し厄介者扱いされる。でもアブのように時にはうとましく、わずらわしい他者によつて初めて、私が私と出あい、私になつていくのだということ。詩人は伝えたいのではないかと思います。

Table with event information: おつとめ学習会 (5月15日), 高山市仏教会 花まつり (5月18日), 高山二組若声会 連続公開学習会 (5月21日)

解放共学研修会のご案内
ハンセン病問題は終わっていません。
第1部 講師 小鹿美佐雄氏
第2部 講師 酒井義一氏
参加費 無料
日時 2014(平成26)年6月5日(木)
会場 高山別院 御坊会館

お肉仏のひまじかおん
問 納めのお肉がまだかおん
答 これは「肩衣」といいます。肩衣とは、肩にかける衣という意味です。真宗に限らず在家の門信徒が仏前にお参りする際に着用します。
御披露役の肩衣 (高山別院所蔵)

定例法座・法話(午後1時から) 4月21日(月) 門端讓氏「弘誓寺」 4月27日(日) 大町慶華輪番 4月28日(月) 鈴山高彰氏「西方寺」 5月1日(木) 江馬耀準氏「光雲寺」 5月11日(日) 大町慶華輪番 5月13日(火) 日野益良氏「桂林教会」